

名古屋COI拠点事業
「足助プロジェクトにおける実証実験」

平成27年12月25日

名古屋大学 未来社会創造機構 名古屋COI拠点

名古屋COI拠点での取り組み

文部科学省
「センター・オブ・イノベーション(COI)プログラム」



今の夢。10年後の常識。
新しい未来を作りたい。

名古屋大学・COI拠点ビジョン
「高齢者が元気になるモビリティ社会の構築」

- 高齢者が【安全に、安心に、楽しく行こう】と思えるクルマ
- そのクルマに乗って【町にでよう】となる情報サービス
- その町で【元気にいこう】と言える社会参画のしくみ

豊田市・足助地区において
モビリティ活用型のモデルコミュニティの構築

高齢者のモビリティ（移動性）を高める
社会システムを提供することで
中山間地域でエイジング・イン・プレイスの実現

ビジョンと創出価値

1 安全に、安心に、楽しく行こう ● 高齢者の心身機能を理解し「不安や事故を回避する」運転者アシスト機能

直進、一時停止、右左折、合流場面の事故半減
運転負担・ストレス半減

「安全だぞ、楽しいぞ!」
「若い人でも運転が楽な気がする!」
「高齢者でも安心して乗りたい!」

安全に安心に
楽しく運転できるクルマ



パーソナル
コンシェルジュ機器

モデルコミュニティ

2 町に出よう ● 高齢者が「外出したくなる 誘導とコトづくり」サービス

高齢者外出回数2割増
「知力・気力・体力」指標倍増

行きたい場所へ
安心して移動
自立的な移動を
変える

パーソナルコンシェルジュ

3 元気にいこう ● 高齢者の自らの移動を維持・創出する 交通インフラ、制度、しくみ、担所づくり

移動量・外出数2割増
知り合い数、笑い・会話数倍増・医療費半減

地域の拠点施設(支所・病院・店舗等)

集合タクシー
共助のマイカー

デマンドバス
地区の立ち寄り施設
(公民館・店舗等)

高齢者モビリティ(コミュニティ)

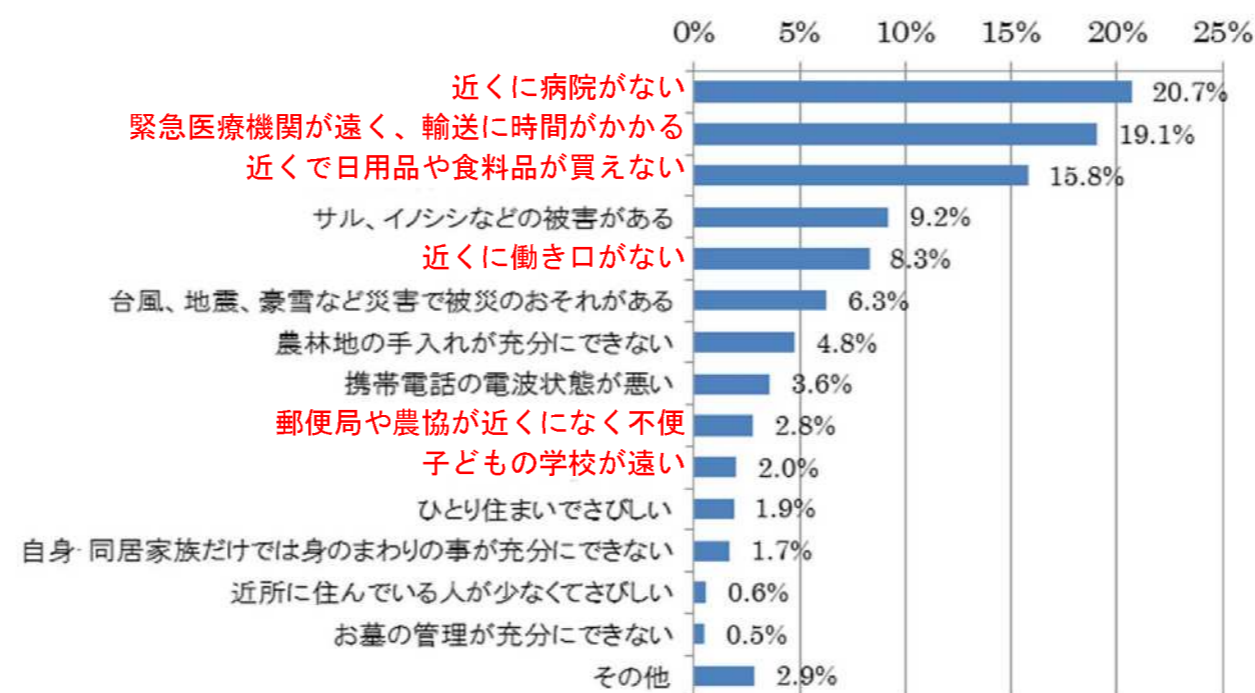
背景 1 : 問題意識

- 少子化と高齢化／中山間地の過疎化
 - 公共交通のサービス水準の低下
 - 中山間地域におけるガソリンスタンドや商業施設の減少
- 高齢者には不便な交通環境
 - 特に、運転免許返納後
- 「住み慣れた場所で最後まで暮らす」という高齢者の希望
 - 「エイジング・イン・プレイス(地域居住)」(Ageing in Place)
 - 「高齢者は介護の対象ではなく、生活する主体」という理念

これらの問題は日本で急速に進行している

背景 2 : 中山間地域の問題

中山間地域の日常生活における問題点



資料: 国土交通省 人口減少・高齢化の進んだ集落等を対象とした「日常生活に関するアンケート調査」の集計結果

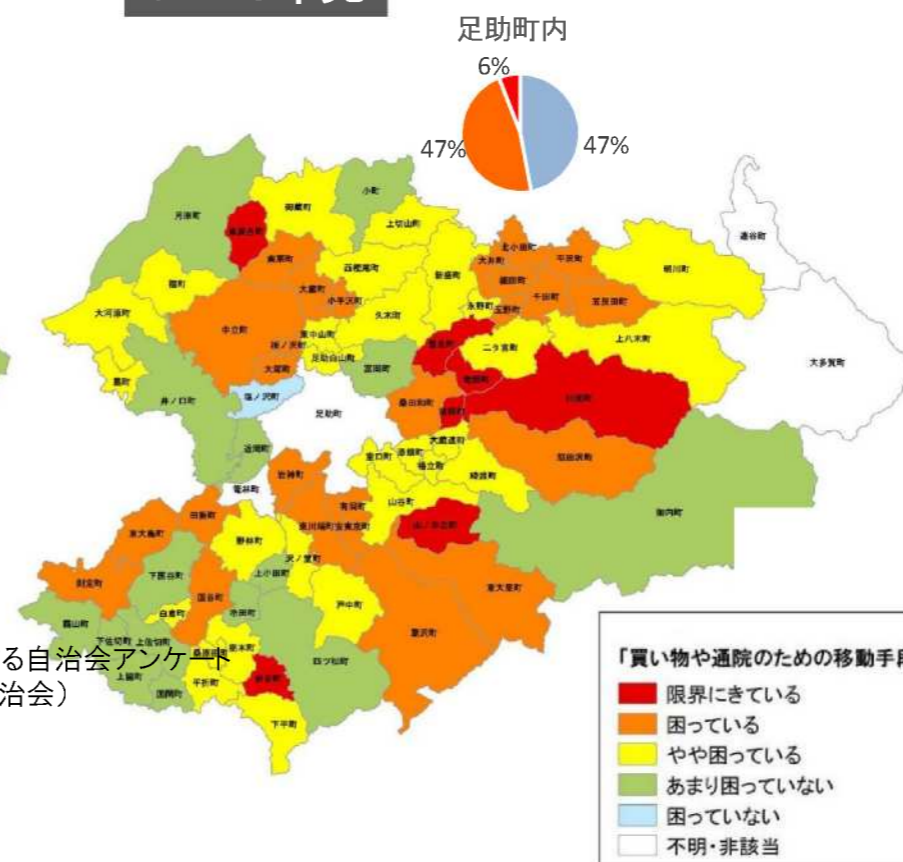
医療・買い物へのアクセシビリティの向上は
中山間地域の最も重要な問題

背景3 地域の交通事情

現在



5~10年先



調査名:集落活動の実態等に関する自治会アンケート
 対象:足助地区の全自治会(76自治会)
 時期:平成26年9月
 回収率:100%

「買い物や通院のための移手段」

- 限界にきている
- 困っている
- やや困っている
- あまり困っていない
- 困っていない
- 不明・非該当

商店と病院へのアクセシビリティに対する危機感

足助プロジェクトの概要

現状 : Before

中山間地域では高齢化に加え、過疎化が急速に進展
医療・買い物へのアクセシビリティの向上が課題
高齢者が求める「エイジング・イン・プレイス」

地域の消滅リスク

3~5年後 : After

地域の課題を解決するには
行政+住民+交通事業者の協働が必要

足助地区 モビリティ活用型のモデルコミュニティの構築

中山間地域におけるエイジング・イン・プレイスの実現のため
高齢者のモビリティ（移動性）を高める**社会システム**を提供

事業効果

事業展開のための外部資金獲得

- A) 高齢者の外出促進（自立移動量増大）
- B) 医療・介護費、公共交通の財政負担の軽減
- C) 事業持続性（ビジネスモデル）と他地域展開性

対象地区



○:CSS 導入地域 ●:MS ○:MC ○:コムス導入地域



西樫尾町
 面積 199ha
 人口 105人
 世帯数 38



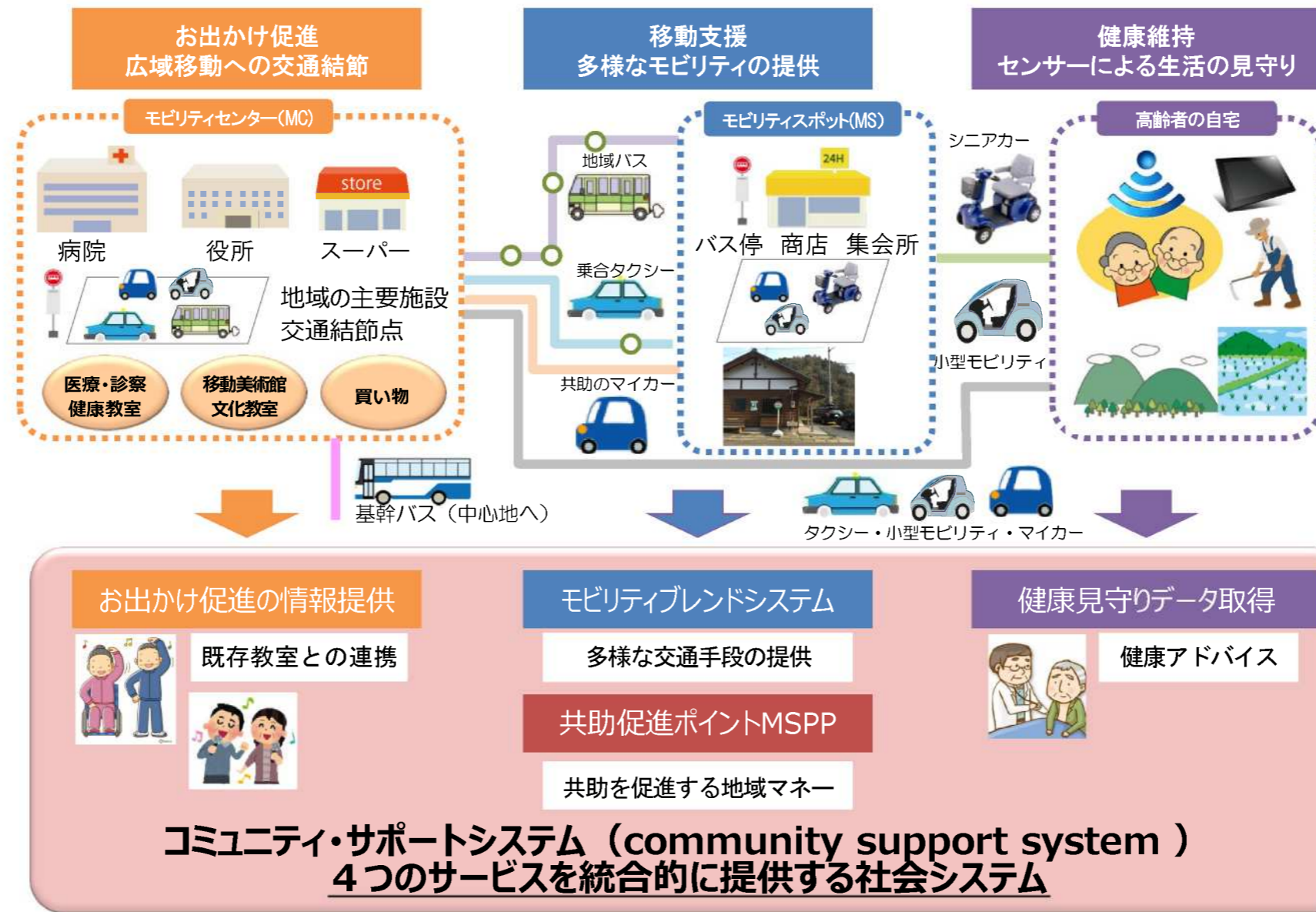
久木町
 面積 265ha
 人口 191人
 世帯数 59



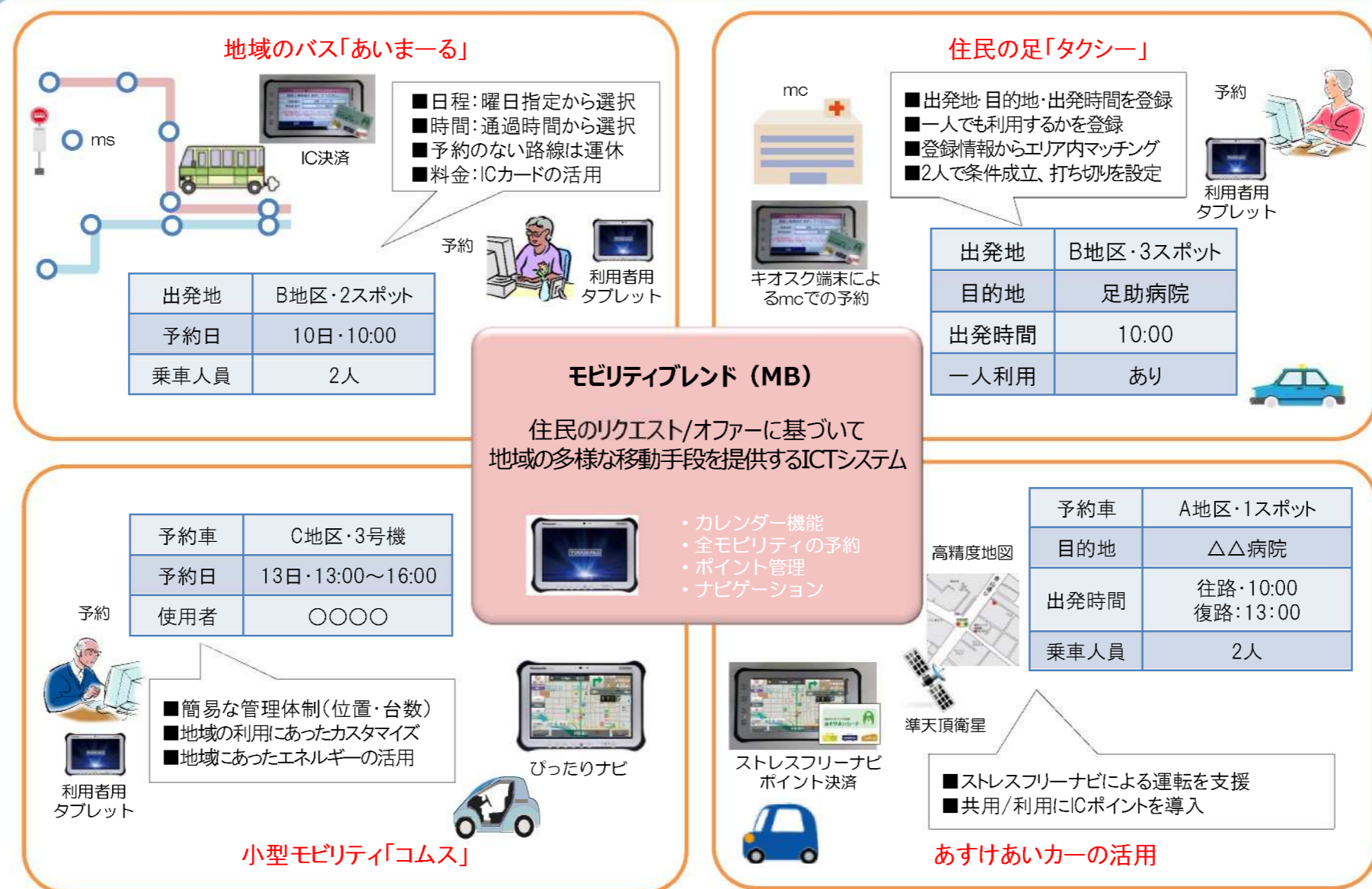
冷田町
 面積 59ha
 人口 40人
 世帯数 15



中山間地域のモビリティを高める社会システム



モビリティブレンドで提供される移動手段



実証実験での取り組み

「あすけあいカー」※とはどんな取り組み？



※住民が同士が支えあい、高齢者の移動を助ける仕組みです。
マイカーに高齢者を同乗させてくれる方を今後募集します。



実験概要

同乗をお願いする対象者：10名
共助の精神に基づく無償運送

マイカーの提供者：10～20名

足助プロジェクト実施体制

